

しゆしやうぎ だいごしやう ぎやうじほうおん
修証義 第五章 行持報恩

このほつ ぼ だいしん おお なんえん ぶ にんしん
此発菩提心、多くは南閻浮の人身に
ほつしん いまかく ごと いんねん

発心すべきなり、今是の如くの因縁あり、

がんしやう ししやばこくど きた けんしやか むに

願生此娑婆国土し来れり、見釈迦牟尼

ぶつ よろこ しず おも しょうぼう

仏を喜ばざらんや。静かに憶うべし、正法

よ る ふ ととき しんめい しょうぼう ため

世に流布せざらん時は、身命を正法の為

ほうしや ねご お

に抛捨せんことを願うとも値うべからず、

しょうぼう お こんにち われら ねご み

正法に逢う今日の吾等を願うべし、見ず

ほとけ のたま むじやうぼだい えんぜつ し

や、仏の言わく、無上菩提を演説する師

あ しゆしやう かん なか

に値わんには、種姓を觀ずること莫れ、

ようがん み なか ひ きろ なか

容顔を見ること莫れ、非を嫌うこと莫れ、

おこな かんが なか ただはんいや そんじゆう

行いを考うること莫れ、但般若を尊重す

ゆえ にちにちさんじ らいはい くぎやう

るが故に、日日三時に礼拝し、恭敬して、

さら げんのう こころ しょう なか いま
更に患悩の心を生ぜしむること莫れと。今

けんぶつもんぼう ぶつ そめんめん ぎょうじ きた
の見仏聞法は仏祖面面の行持より来れ

じおん ぶつ そも たんでん いか
る慈恩なり、仏祖若し単伝せずば、奈何

こんにち いた いっく おんなおほうしゃ
にしてか今日に至らん、一句の恩尚報謝

いっぼう おん な ほうしゃ いわん
すべし、一法の恩尚お報謝すべし、況や

しょうほうげんぞうむじょうだいほう だいおん ほうしゃ
正法眼蔵無上大法の大意これを報謝せ

びょうじやくな おん わす さんぶ かん
ざらんや、病雀尚お恩を忘れず三府の環

よ ほうしゃ きゆうき な おん わす よ
能く報謝あり、窮亀尚お恩を忘れず、余

ふ いんよ ほうしゃ ちくるいな おん ほう
不の印能く報謝あり。畜類尚お恩を報ず、

じんるいいかで おん し そのほうしゃ よげ
人類争か恩を知らざらん。其報謝は余外

ほう あた ただまさ にちにち ぎょうじ
の法は中るべからず、唯当に日日の行持、

そのほうしゃ しょうどう いわ どうり
其報謝の正道なるべし、謂ゆるの道理は

にちにち せいめい なおざり わたくし ついや
日日の生命を等閑にせず、私に費さざら

んぎようじと行持するなり。光陰こういんは矢やよりも迅すみかな

り、身命しんめいは露つゆよりも脆もろし、何れいずの善巧ぜんぎよう

方便ほうべんありてか過すぎにし一日いちにちを復ふたび還たし得え

たる、徒いたずらに百歳ひやくさい生いけらんは恨うらむべき日じつ

月げつなり、悲かなしむべき形骸けいがいなり、設たとい百歳ひやくさいの

日月じつげつは声色しょうしきの奴婢ぬびと馳走ちそうすとも、其中そのなか

一日いちにちの行持ぎようじを行取ぎようしゆせば一生いつしやうの百歳ひやくさいを

行取ぎようしゆするのみに非あらず、百歳ひやくさいの他生たしやうをも

度取どしゆすべきなり、此この一日いちにちの身命しんめいは尊とうとぶべき

身命しんめいなり、貴とうとぶべき形骸けいがいなり、此行持このぎようじあら

ん身心しんじんみず自あいからも愛みずすべし、自みずからも敬うやまうべ

し、我等われらが行持ぎようじに依よりて諸仏しよぶつの行持ぎようじ見成げんじやう

し、諸仏しよぶつの大道だいでう通達つうだつするなり、然しかあれば

すなわ いちにち ぎょうじこれ しよぶつ しゅし
則ち一日の行持是れ諸仏の種子なり、

しよぶつ ぎょうじ いわ 謂ゆる諸仏とは

しやかむにぶつ 釈迦牟尼仏なり、
しやかむにぶつ 釈迦牟尼仏是れ即

しんぜぶつ 心是仏なり、
かこげんざいみらい 過去現在未来の諸仏、
とも 共

ほとけ にな な とき かなら しゃかむにぶつ
に仏と成る時は必ず釈迦牟尼仏とな

これ なるなり、
そくしんぜぶつ 是れ即心是仏なり、
そくしんぜぶつ 即心是仏

たれ というは誰というぞと
しんさい 審細に参究す

まさ べし、
ぶつおん 正に仏恩を報ずるにてあらん。
ほう

年 月 日

氏名

謹写